

「2017 民進党国会レポート」発刊にあたり

みんながみんなのために。

「All for All」で国会をリードします。



民進党政務調査会長 **階 猛**

2016年3月27日、「自由」「共生」「未来への責任」の旗を掲げ、国民とともに進むことを誓い合い、民進党は誕生しました。結党2年目を迎え、第2号となる2017年国会レポートをここに発刊いたします。

安倍政権の発足から4年以上たった193回通常国会。長期政権のおごりやゆるみ、そして説明責任を果たさない安倍内閣の不誠実な姿勢を象徴する多くの疑惑が表面化しました。森友・加計学園問題、南スーダンPKO日報隠し問題、文科省で発覚した組織的な天下り等、枚挙に暇がありません。蓮舫体制の下、民進党はこれらの問題について、国会の委員会等の場で安倍政権を徹底的に追求しました。

安倍政権は政策面においても、立憲主義を軽んずる姿勢や経済政策・社会保障政策等の行き詰まりを露呈することになりました。国民生活にも悪影響が広がり、政策の転換は急務です。民進党は、前任の大串博志政調会長の指示に基づき、単なる反対ではない「提案型の論議」を進めました。193回通常国会において、政府提出法案が66本だったのに対し、

民進党は継続分を含めて59本、閣法に匹敵する数の議員立法を積極的に提案しました。

他方で、私たち政務調査会の最大の使命は、国民の皆さまの声を真摯に受け止め、民進党らしい政策を打ち出し、安倍政権との対立軸を明らかにすることです。具体的には、「人への投資」を推進する、民進党の新しい経済政策を策定しました。また、尊厳ある生活保障総合調査会を設置し、民進党が目指す国家像とその処方箋について、精力的に議論を続けてきました。そこで生まれた新しい旗印が、「All for All」です。アベノミクスによって生じた国民の間の格差と分断を解消すべく、すべての人たちの命と尊厳を保障し、希望と活力の好循環社会を創ります。同時に、改革政党として、情報公開や公文書管理の改善、天下りやムダ遣いのチェックにもしっかり取り組みます。

去る9月1日、前原誠司代表が新代表に選出されました。新体制の下、民進党は、今後も国民の皆様とともに進み、民進党の政策軸の提案と安倍政権の追求に全力で取り組むことを新政調会長としてお誓い申し上げます。